（別添資料１）

事業所名	放課後等デイサービス、児童発達支援　北風と太陽 刈谷	支援プログラム（参考様式）	作成日	6 年	12 月	1 日

法人（事業所）理念	「子ども」「家族」「社会」を軸に子どもたちの未来を考えていく。	
支援方針	「子どもたちのワクワク・ドキドキを大切にし、自己肯定感を育む」	
営業時間	10 時　0 分から　19 時　0 分まで	送迎実施の有無　あり　なし

		支　援　内　容
本人支援	健康・生活	・健康状態の把握　利用中における定めた時刻での定期的な検温にて体調観察を行い、体調不良時の把握をいち早く行う。 ・健康の増進 集団活動において、基礎運動を取り入れて、体力の維持および運動能力の向上を支援する。健康生活の基本となる体づくりの支援を行う。 ・基本生活スキルの獲得　個別活動の中で、整理整頓（片付け）の週間をつけるための時間を確保する。身の回りを整理して、効率の良い生活を送るために必要な基本的技能を獲得できるよう支援を行う。 ・構造化により生活環境を整える個別活動および集団活動等の中で、さまざまな遊びを通して全体の状況や流れを学習できるよう環境を整える支援を行う。 また、障がいの特性に合わせ、タイミングや状況（全体像）を本人が理解できるよう「見える化」するなどわかりやすく構造化して支援を行う。
	運動・感覚	・姿勢と運動、動作の基本的技能の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や、運動・動作の改善および習得、筋力の維持・強化を図る。個別活動の中で、椅子や机を用いた支援において正しい姿勢の習得を目的とした支援を行う。 ・感覚の補助及び代行手段の活用 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすいように眼鏡や補聴器などの各種の補助機器を安全に効果的に活用できるよう支援を行う。 ・保有する感覚の活用　保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊具や器具を使った遊びなどを通して支援を行う。縄跳びを使ったタイミングの感覚やバランスの感覚、ボールを使った体の動かし方や強弱の力感覚、方向感覚の取得ができるよう支援を行う。楽しく運動ができるよう、状況（屋内、屋外、広さ、安全の確保）に合わせた道具や方法を用いて支援を行う。
	認知・行動	・感覚や認知の活用 障がい特性に応じた、視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用して必要な情報を収集しやすいよう、色、音、絵や文字、道具を用いて、認知機能の発達を促す支援を行う。 ・知覚から行動への認知過程の発達　集団活動やグループ活動支援の中で、活動内容（環境）から情報を取得しやすいよう絵カードやルールを用いて「見える化」するなど、必要なメッセージを自ら選択し、行動につなげられるよう一連の認知過程の発達支援を行う。 ・数量、大小、色等の取得　数量の予測、大小の選択、色の認知など作品完成までの流れに関する行動や手掛かりとして活用できるよう、積み木やブロックなどを用いて特性に合わせた支援を行う。 ・認知への偏りへの対応　認知の特性を踏まえ、絵カードやスケジュール表などを用いて自分に入ってくる情報を適切に処理し、自ら選択して安全に正しく行動できるよう支援し、認知の偏りなど一人ひとりの特性に配慮する。また、おやつの提供によって、こだわりや偏食に対する支援を行う。
	言語 コミュニケーション	・言語の形成と活用 集団活動の中で「子ども会議」などを行い、議題にそった発表の機会を設ける。これにより具体的な体験や言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行う。 また、自分の考えを伝えたり人の意見を聞き入れて相手の意図を理解するなど、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得を目指す支援を行う。 ・読み書き能力向上のための支援　作成した読み書き支援用のテキストやプリントなどを用いて読み書き能力の向上を目指す。また、文字カードやカルタなどの知育玩具を用いて一人ひとりの能力に合った読みの向上を目指す支援を行う。・コミュニケーション機器（道具）の活用　集団活動やグループ活動の中で、糸電話や伝言ゲームなどの遊びを通して意思の伝達が円滑にできるよう支援を行う。
	人間関係 社会性	・自己の理解とコントロールのための支援　職員は児童の特性を理解し、一人ひとりに合わせた声掛け支援、行動支援を行い、自分の出来る事と出来ない事など自分の行動の特徴を理解し、気持ちや感情の調整ができるように支援を行う。 ・集団への参加への支援　個別活動からグループ活動へ順に進め、一人ひとりの状況や状態に合わせて集団への参加を促す。また、受け入れる側（集団）の児童に対して、相手の気持ちや状況などを理解するための話し合いや声掛け支援を行い、安心して集団へ参加できるよう、また参加する方法を取得できるよう支援を行う。

家族支援	・家庭訪問などの実施・保護者からの聞き取りを活かし個別支援計画書を作成する。 ・悩みや喜びを共有し、共に成長を見守る。	移行支援	・必要に応じて学校を訪問し、行事等、普段と異なる活動の際のこどもの関わりについて、具体的なかかわりのモデルを示す。 ・学校の連絡と当時業者の連絡を相互に確認し、日々の様子を共有。
地域支援・地域連携	・地域のお祭りへの参加。 ・近隣の方々へイベント参加への呼びかけ。	職員の質の向上	市の虐待研修などへの定期参加。毎月テーマが決まっている研修動画サービスへの参加。
主な行事等	バーベキュー、デイキャンプ、キャンプファイアー、水鉄砲サバゲー、他事業所とのコラボイベント、逃走中遊び、全児童の誕生日会、ハロウィン、クリスマス会、その他も毎年色々なイベントが生まれています。		